

# 認知言語学： 言語普遍性と言語固有性 3

---

サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所  
南雅彦

# 言語普遍性と言語固有性

- 言語共通性
- 朝の概念
  - ドイツ語“*Heute Morgen ist schön.*”（今日の朝は美しい）  
“*Morgen soll es sonnig werden.*”（明日は晴れるでしょう）のように、“*Morgen*”には「朝」という意味と「明日」という意味がある。
  - 日本語の時間概念を語彙で示した場合  
アサ(朝)→ヒル(昼)→ユフ(夕)→ユフベ(夕べ)→ヨヒ(宵)→ヨナカ(夜中)→アカツキ(暁)→アシタ(朝)

## 認知文法

- 「個々の言語の具体的な使用の蓄積とそれらが構成するネットワークが話者の言語的知識の本質である」という立場を取る。
- 認知文法の創設者であるLangacker(1987)によれば、我々は主観的な視点を構築しているが、同じ現象や対象をどのような視点で捉えるのかという心理的な意味構築をしており、これを“*construal* (解釈・捉え方)”と呼ぶ。

- 比喩は認知言語学における主要な領域。
- 「カラダというのは感情を入れておく容器である」というのは言語にかかわらず普遍に理解可能な概念かどうか。
- 言語普遍性
- **HEAT OF FLUID IN CONTAINER (Lakoff, 1987)**
- **The body is a container for the emotions.**
  - He was filled with anger.
  - She couldn't contain her joy.
  - She was brimming with rage.
- **Anger is the heat of a fluid in a container.**
  - You make my blood boil.
  - I had reached the boiling point.
- 秘密が漏れる

# 言語普遍性と言語固有性

空間における参照物体(ground object)の形状によって異なる語彙を使用する

## 言語固有性

• Mixtec (ミシュテカ: メキシコの原住民の言語)

• The stone is **under** the table.

• Yuù wǎ híyaà  
• stone the is-located

chìi-mesá.  
**belly**-table

• He is **on top** of the hill.

• híyaà-ðe shini-yúku.  
• is located-he **head**-hill

• My son is lying **on** the mat.

• se?e-ri hitu **nûû-yuu.**  
• **son-my** lie **face**-mat

• I gave a horse **to** your son.

• ni-ha?a-rí ?nkiti  
• I gave a horse

nûû-se?e-ro.  
**face**-son

# 言語普遍性と言語固有性

## 言語固有性

- 日本語では、有声(濁音)のオノマトペが無声(清音・半濁音)のオノマトペよりも大きな音や激しい程度を表している。

- 濁音の効果(音象徴)

- |        |    |      |          |
|--------|----|------|----------|
| • ぎらぎら | ←→ | きらきら | 光る       |
| • どんどん | ←→ | とんとん | 戸を叩く     |
| • ぱりぱり | ←→ | ぱりぱり | せんべいを食べる |
| • ごろごろ | ←→ | ころころ | 坂を転がり落ちる |
| • ぼろぼろ | ←→ | ぽろぽろ | ご飯をこぼす   |
| • ぽかぽか | ←→ | ぽかぽか | なぐる      |

- 英語では有声と無声の対立を体系的には利用していない。
- すべての言語が普遍的な音象徴を同じように利用しているわけではない。